

1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H1
第4次長期総合計画														
昭和52年11月 昭和51～60年度														
・豊かで住みよい活力のある地域社会の建設														
体化 新幹線等による高速 開	<ul style="list-style-type: none"> ・地域格差の存在 ・県外への出稼ぎ ・若年層の流出 ・高度成長から低成長への移行 													
の保全と整備	<ul style="list-style-type: none"> ①活力と豊かさを支える産業の発展 ②安心した生活と快適な生活環境の確保 ③県土の発展を支える基礎条件の整備 ④人間性豊かな人づくりと地域の発展を担う人材の育成 ⑤コミュニティの形成 													
地域別構想(4地域・12頁)[地域発展の基本方向]														
北村正武 (S54. 2.26～H7. 2.25)														
第三次全国総合開発計画 昭和52年11月 目標年次：昭和52年から概ね10か年間 ＜人間居住の総合的環境の整備＞ (H1. 6.3～H1. 8.10)														
第四次全国総合 開発計画 (次頁)														
三木武夫 (S49. 12. 9～ 51. 12. 24)	福田赳夫 (S51. 12. 24～ 53. 12. 7)	大平正芳 (S53. 12. 7～ 55. 7. 17)	鈴木善幸 (S55. 7. 17～ 57. 11. 27)	中曽根康弘 (S57. 11. 27～62. 11. 6)								竹下登 (S62. 11. 6 ～H1. 6. 3)	宇 野 宗 佑	
15.3%	12.8%	10.5%	9.7%	11.8%	4.5%	7.1%	3.9%	2.0%	6.3%	6.6%	1.0%	3.2%	4.6%	7.7%
4.4%	4.0%	4.9%	1.2%	9.3%	1.1%	3.7%	2.0%	-0.3%	3.9%	1.5%	-1.8%	1.9%	3.6%	4.7%
<ul style="list-style-type: none"> ・産業構造の質的高度化をめざして(S59 経済) ・雪と県民生活(S60 生活) ・成長力の涵養をめざして(S61 経済) ・高齢化社会へ向けて(S62 生活) ・新たな環境変化と県経済(S63 経済) 														
<ul style="list-style-type: none"> を迎えて(S49 経済) ・県民生活の回顧と福祉水準(S50 生活) ・低成長下の構造変化と県経済の課題(S52 経済) ・新局面を迎える県経済(S55 経済) ・全天候型の産業構造をめざして(S57 経済) 														
10.5%	12.3%	11.4%	10.1%	8.4%	8.4%	7.5%	5.0%	4.0%	6.3%	7.4%	4.7%	4.0%	7.5%	7.7%
3.1%	4.0%	4.4%	5.3%	5.5%	2.8%	4.2%	3.4%	3.1%	4.5%	6.3%	2.8%	4.1%	7.1%	5.4%
<ul style="list-style-type: none"> ・先進国日本の試練と課題(S55) ・国際的調和をめざす日本経済(S61) ・新しい安定軌道をめざして(S50) ・日本経済の創造的活力を求めて(S56) ・進む構造転換と今後の課題(S62) ・新たな発展への基礎のため(S51) ・経済効率性を活かす道(S57) ・持続的成長への足固め(S58) ・内閣型成長の持 ・構造転換を進めつつある日本経済(S53) ・新たな国際化に対応する日本経済(S59)と国際社会へ ・すぐれた適応力と新たな出発(S54) ・新しい成長とその課題(S60) ・の貢献(S63) 														
安定成長景気 ←→ 公共投資景気 ←→ 第二次オイルショック ←→ ハイテク景気 ←→ 円高不況 ←→ バブル景気														
<ul style="list-style-type: none"> ・三沢空港東京便就航(S50) ・岩木山百沢で土石流発生(S50) ・強風でりんご360万箱落果(S51) ・63年ぶりの冷夏と冷害(S51) ・あすなる団体開催(S52) ・青森市積雪195cmの豪雪で政府が豪雪対策本部設置(S52) ・本県人口150万人を超える(S53) ・八戸港水揚げ75万トンで日本一に(S53) ・東北自動車道青森-大館間開通(S54) ・台風20号でりんご200万箱落果(S54) ・東北新幹線青森駅が石江地区に決定(S55) ・冷夏で水稲作況指数47の大凶作(S55) ・国鉄黒石線・大畑線の廃止決定(S56) ・水稲作況指数65と2年連続の冷害(S56) ・東北新幹線盛岡-大宮間開業(S57) ・原子力船むつ佐世保での改修終了4年ぶりに大湊へ帰港(S57) ・日本海中部地震発生(S58) ・青函トンネル先導坑貫通(S58) ・黒石線・大畑線の民営化(S59) ・県内、記録的な豪雪被害(S59) ・核燃サイクル基地六ヶ所村立地決定(S60) ・むつ小川原国家石油備蓄基地完成(S60) ・六ヶ所村ウラン濃縮工場建設着手(S63) ・東北自動車道青森-清和間開通(S61) ・県観光物産館アスラム開館(S61) ・新青森空港開港(S62) ・台風12号で水稲・りんごに100億円被害(S62) ・青函トンネル開業、青函開港(S63) 														
<ul style="list-style-type: none"> ・キングオブロックンロール ・エルビス・プレスリー死去(S52) ・宮城県沖地震(S53) ・英で試験管ベビー誕生(S53) ・英で試験管ベビー誕生(S53) ・東京で先進国首脳会議開催(S54) ・ジョン・レノン射殺(S55) ・1億円拾得事件(S55) ・ローマ法皇初来日(S56) ・深川通り襲殺殺人事件(S56) ・ホテルニュージャパン火災(S57) ・フォークランド紛争(S57) ・大韓航空機墜落事件(S58) ・三宅島大噴火(S58) ・グロコ森永事件(S59) ・ロス・リフト(S59) ・国鉄分票・民営化(S62) ・世界の人口50億人突破(S62) ・リクルート疑惑(S62) ・日航ジャンボ機墜落、520人死亡(S60) ・国鉄同時多発ケリラ(S60) ・テューンブライ原発事故(S61) ・英・フランス太子が17日来日(S61) 														

として利用された。

西暦	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002			
和暦	H1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13			
名称	第5次長期総合計画							新青森県長期総合計画								
策定時期	昭和61年12月							平成9年2月								
計画期間	昭和61～92年度							平成9～18年度								
基本的目標等	・豊かで住みよい活力のある地域社会の建設							・ニューレナサンス 一人間性復活								
背景	・人口の急速な高齢化 ・所得水準の伸び悩み ・県民意識の多様化 ・高速交通時代の到来・情報化、国際化の進展							・従来の開発主導型による発展の限界 ・自然との共存や心の豊かさを求める新たな動き ・「地方分権」「新地方時代」の始まり ・県民の意欲と能力が問われる時代								
施策の推進方向・めざすべき社会像	①新時代を担う人づくりと個性豊かな学術・文化の創造 ②豊かな地域社会を築く産業の振興 ③快適でゆくもりのある新しい調和型社会の創出 ④高度ネットワーク型社会の創出 ⑤美しい国土の保全と豊かな資源の活用							①誰もがゆとりを持って、安心し、快適に暮らせる「悠々・安心・快適社会」の実現 ②自立性と自主性を育む、可能性に富んだ「未来あふれる社会」の実現 ③新たな生活空間を提案する「彩りある美しい社会」 ④多様な交流ネットワークの形成を通じて、新たな可能性を創造する「出逢い創造社会」の実現								
地域別計画等	地域別構想(4地域・12頁)[地域別の発展方向と主要施策]							県土のグランドデザイン(3圏域・40頁) [各圏域の整備方向]								
知事	北村正武(S54.2.26～H7.2.25)							本村守男(H7.2.25～15.5.16)								
名称	第四次全国総合開発計画							21世紀の国土のグランドデザイン								
策定時期	昭和62年6月							平成10年3月								
目標年次	目標年次：概ね2000年							目標年次：2010年から2015年								
基本的目標	<多極分散型国土の構築>							<多輪型国土構造形成の基礎づくり>								
内閣総理大臣	海部俊樹 (H1.8.10～3.11.5)		宮澤喜一 (H3.11.5～5.8.9)		細川護国 羽田孜		村山富市 (H6.6.30 ～8.1.11)		橋本龍太郎 (H8.11.11～10.7.30)		小淵恵三 (H10.7.30～ 12.4.5)		森喜朗 (H12.4.5～ 13.4.26)		小泉純一郎 (H13.4.26～ 18.9.26)	
名目経済成長率	5.9%	4.5%	4.0%	0.5%	4.7%	2.4%	2.1%	-1.9%	-0.4%	0.2%	1.3%	-2.5%	-1.7%			
実質経済成長率	2.9%	2.2%	2.2%	-0.3%	4.4%	3.0%	2.6%	-2.9%	0.7%	1.3%	2.2%	-0.8%	0.0%			
社会経済白書 (経済白書、県民生活白書)のテーマ	・自立調和型経済に向けて(H2 経済) ・県民生活と快適生活環境(H3 生活) ・産業の質的向上のために(H4 経済)							・戦後50余年を経た県民生活の変遷(H9 生活) ・21世紀の産業づくりと雇用の創出に向けて(H10 生活) ・少子社会の中での県民生活(H11 生活) ・本県経済と情報通信技術(I1)								
名目経済成長率	8.0%	6.0%	2.4%	0.6%	1.0%	2.7%	2.4%	0.9%	-1.4%	-0.8%	1.2%	-1.8%	-0.8%			
実質経済成長率	5.6%	3.3%	0.8%	0.2%	0.9%	3.3%	2.9%	0.0%	-0.9%	0.7%	2.5%	-0.5%	0.9%			
経済財政白書 (H12までは経済白書)のテーマ	・平成経済の門出と日本経済の新しい潮流(H・日本経済のダイナミズムの復活をめざして(H7)) ・持続的拡大への道(H2) ・長期拡大の条件と国際社会における役割(H3) ・調整をこえて新たな展開をめざす日本経済(H4) ・パールの教訓と新たな発展への課題(H5)							・改革が展望を切り開く(H8) ・改革なくして成長 ・新しい経済フロンティアの構築に向けて(H6 経済) ・消費生活を通る情勢と消費生活向上に向けての対応(H7 生活) ・21世紀を迎えた ・高齢者の就業 ・本県経済成長の道のりと未来(H8 経済)								
好況	バブル景気			第一次平成不況 (複合不況)			カンフル景気			第二次平成不況 (日本列島総不況)			IT景気		第三次平成不況 (デフレ不況)	
青森県に関する 主な出来事	・東北自動車道八戸線全通(H1) ・県産米「つがるおとめ」デビュー(H1) ・津軽岩木リゾート構想承認(H2) ・青森空港全面開港(H2) ・東北新幹線盛岡-青森開着工(H3) ・台風19号でりんご34万t落果、被害額1,129億円余(H3) ・6ヶ所クワック濃縮工場の本格操業開始(H4) ・仏沼湿原のオオセツク国内希少野生動物植種に指定(H4) ・白神山地世界遺産登録(H5) ・全国最低の作況指数28で大正2年以来の大凶作(H5) ・三内丸山遺跡から木柱等出土(H6) ・三陸はるか沖地震発生(H6) ・ソウル便、ハバロフスク便就航(H7) ・東北新幹線盛岡-八戸間フルトン化着工(H7)							・五所川原立原武多復活(H8) ・八戸港が国の輸入促進地域に指定(H8) ・三内丸山遺跡の国史跡指定(H9) ・県産米「つがるロマン」デビュー(H9) ・東北新幹線八戸-新青森開着工(H10) ・弘南鉄道黒石線廃止(H10) ・東通原発着工(H11) ・県立保健大学開学(H11) ・三内丸山遺跡特別史跡指定 ・六ヶ所村再処理工場への使用 ・下北交通大畑線 ・八戸市が特例市に ・青い森鉄道								
国内・世界の 主な出来事	・ベルリンの壁崩壊(H1) ・消費税スタート(H1) ・礼宮さま・紀子さま御結婚(H2) ・東西ドイツが統一(H2) ・湾岸戦争(H3) ・雲仙普賢岳で火砕流(H3) ・バルセロナ五輪で日本メダル22個(H4) ・皇太子・雅子さま御結婚(H5) ・北海道南西沖地震(H5)			・中華航空機着陸失敗、264人死亡(H6) ・関西国際空港開港(H6) ・阪神・淡路大震災(H7) ・地下鉄サリン事件(H7) ・0-157による集団食中毒(H8) ・ベルー日本大使公邸人質事件(H8) ・ダイアナ元妃、パリで交通事故死(H9) ・長野冬季五輪(H10) ・国内初の狂牛病(H10) ・和歌山カレー毒物混入事件(H10)			・西暦2000年問題(H11) ・初の脳死判定による移植手術実施(H11) ・三宅島雄山噴火(H12) ・シドニー五輪(H12)			・日朝首脳		・サッカー				

※ 県の実質経済成長率については、基準年次や推計方法の見直しにより、必ずしも接続しない。よって、正式なデータとしてはあく参考値

2003 15	2004 16	2005 17	2006 18	2007 19	2008 20	2009 21	2010 22	2011 23	2012 24	2013 25	
生活創造推進プラン						青森県基本計画未来への挑戦					
平成16年12月 平成16～20年度 ・暮らしやすさのトップランナーをめざして ・経済のグローバル化 ・少子・高齢化の進行 ・地方分権の進展 ・環境への意識の高まり ・情報ネットワーク社会の進展						平成20年12月 平成21～25年度 ・「生業（なりわい）」に裏打ちされた豊かな「生活」が実現している社会 ・人口減少幅の拡大や高齢化・少子化の進行 ・浮揚感を欠く経済や厳しい雇用情勢 ・人口減少下でのグローバル展開の必要性 ・「食」に対する県民・国民の関心の高まり ・地球環境問題のクローズアップ ・平成22年度中の東北新幹線全線開業					
①人財：青森の豊かさを知り、夢をもって未来を拓く社会 ②産業・雇用：いきいきと働ける豊かな社会 ③健康：健やかで安心して暮らせる社会 ④環境：環境と共生する循環型社会 ⑤安全・安心：安全・安心で快適な社会						①産業・雇用分野（仕事づくりと所得の向上） ②安全・安心・健康分野（命と暮らしを守る） ③環境分野（低炭素・循環型社会の形成） ④教育、人づくり分野（生活創造社会の礎）					
						地域別計画（6地域・36頁）[特性と課題、概況、めざす姿、取組の展開方向と重点施策]					
三村申吾（H15. 6. 29～）											
国土形成計画						平成20年7月					
						目標年次：平成20年から概ね10か年間					
小泉純一郎 (H13. 4. 26～18. 9. 26)		安倍晋三 (H18. 9. 26～19. 9. 26)		福田康夫 (H19. 9. 26～20. 9. 24)		麻生太郎 (H20. 9. 24～21. 9. 16)		鳩山由紀夫 (H21. 9. 16～22. 8. 8)		菅直人 (H22. 8. 8～23. 9. 2)	
-1.4%		-0.4%		-2.9%		8.2%		-0.9%		-6.7%	
-0.4%		0.8%		-1.8%		9.1%		-0.8%		-7.2%	
・人口減少社会への対応（H15） 経済） ・アフリカにおける県民生活と本県経済の活性化に向けて（H16） ・高遠交通体系の整備と本県経済・県民生活の進化（H17） ・持続的・自立可能な地域経済の実現を目指して（H18） ・活力ある地域社会の形成に向けて（H24） ・課題解決を通じた地域M2-Fの再構築（H25）						・世界経済危機からのゆるやかな回復と本県経済（H22） ・東日本大震災と本県経済（H23） ・人口減少社会における地域の活性化に向けて（H19） ・平成一四年2月～平成19年10月の景気回復期における本県経済の動向（H20） ・世界的な経済危機と本県経済（H21）					
0.6%		0.7%		0.8%		0.6%		0.4%		-4.0%	
2.0%		1.7%		2.0%		1.4%		1.2%		-3.4%	
なし（H13） 成長なしⅡ（H14） ・改革なくして成長なしⅢ（H15） ・改革なくして成長なしⅣ（H16） ・改革なくして成長なしⅤ（H17） ・成長条件が復元し、新たな成長を目指す日本経済（H18）						・生産性上昇に向けた挑戦（H19） ・リスクに立ち向かう日本経済（H20） ・危機の克服と持続的回復への展望（H21） ・需要の創造による成長力の強化（H22） ・日本経済の本質的な力を高める（H23） ・日本経済の復興から発展的創造へ（H24） ・経済の好循環の確立に向けて（H25）					
いざなぎ景気						デジャブ景気					
						世界金融不況 ←→ 欧州経済危機					
・第5回アジア冬季競技大会開催（H15） ・青森自動車道青森IC-青森東IC間開通（H15） ・五戸町と倉石村が合併（H16） ・県、六ヶ所村、日本原燃がウラン試験安全協定調印（H16） ・八甲田トンネル貫通（H17） ・東通原発電開始（H17） ・県立美術館開館（H18） ・平成の大合併で40市町村に、青森市が中核市に移行（H18） ・青森空港CATⅢ化（H19） ・八甲田で雪崩、死者2名重軽傷8名（H19） ・G8エネルギー担当大臣会合開催（H20） ・本県人口140万人割れ（H20） ・太宰治生誕100年（H21） ・東北新幹線東京-新青森間がレール1本で繋がる（H21） ・新型インフルエンザ流行で学校等閉鎖措置が増加（H21）						・記録的猛暑による陸奥湾葉瀬ホタテへ1死被害（H22） ・東北新幹線全線開業（H22） ・M9.0の巨大地震を記録した東日本大震災で大津波が発生 ・県南を中心に漁漁・住宅等に被害（H23） ・弘前城築城400年祭（H23） ・大雪で国道279号車載百立ち往生（H24） ・八戸せんべい汁B-1グランプリ賞賛（H24） ・三陸復興国立公園の指定（H25） ・三浦城一郎氏が80歳でエベレスト登頂に成功（H25）					
（H12） 済核燃料本格搬入（H12） 廃止（H13） 移行（H13） 八戸駅開業（H14） 開業（H14）						（H12） ・青森空港CATⅢ化（H19） ・三浦城一郎氏が80歳でエベレスト登頂に成功（H25）					
会談（H14） W杯自勝共催（H14） ・新型肺炎SARSの世界的流行（H15） ・スーパーストーム7号暴落事故（H15） ・スマトラ島沖地震（H16） ・新潟県中越地震（H16） 同時多発テロ（H13） 確認（H13）						・食品偽装問題（H19） ・中国食品等の安全性問題（H19） ・秋葉原無差別殺傷事件（H20） ・オバマ氏が史上初の黒人系大統領に就任（H20） ・マイケル・ジャクソン死去（H21） ・衆院選で民主党が大勝、政権交代（H21） ・尖閣諸島沖での海保巡視船と中国漁船衝突事故動画の流出（H22） ・小惑星探査機「はやぶさ」帰還（H22）					
						・東日本大震災、福島原発事故発生（H23） ・サッカー女子W杯などで「デジャブ」世界一（H23） ・ロンドン五輪で日本メダル最多の38個（H24） ・東京スカイツリー開業（H24） ・富士山が世界文化遺産に登録される（H25） ・2020年の東京オリンピック開催決定（H25）					

として利用されたい。

西暦	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
和暦	26	27	28	29	30	31				
青森県	名称	青森県基本計画未来を定める挑戦				青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦				
	策定時期	平成25年12月				2018(平成30)年12月				
	計画期間	平成26～30年度				2019(平成31)～2023年度				
	基本的目標等	青森県の「生業(なりわい)」と「生活」が生み出す価値が世界に貢献し広く認められている状態				「生業(なりわい)」と「生活」が好循環する地域へ～「世界が認める「青森ブランド」の確立」～				
	背景	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・少子高齢化の進行 ・平均寿命の低位停滞 ・ICT技術の普及と県民生活への浸透 ・北海道新幹線新青森・新函館北斗間開業(H27年度) ・東日本大震災からの創造的復興 				<ul style="list-style-type: none"> ・歯止めのかからない人口減少・少子高齢化の進行 ・第4次産業革命の進展による地域社会の変化(Society5.0の実現) ・各産業分野で労働力不足の顕在化 ・国際社会での「持続可能な開発目標」(SDGs)に対する関心の高まり 				
	施策の推進方向・めざすべき社会像	<ul style="list-style-type: none"> ①産業・雇用分野(仕事づくりと所得の向上) ②安全・安心・健康分野(命と暮らしを守る) ③環境分野(自然との共生、低炭素・循環による持続可能な地域社会の形成) ④教育、人づくり分野(生活創造社会の礎) 				<ul style="list-style-type: none"> ①産業・雇用分野(しごとづくりと所得の向上) ②安全・安心・健康分野(命と暮らしを守る) ③環境分野(自然との共生、低炭素・循環による持続可能な地域社会) ④教育・人づくり分野(生活創造社会の礎) 				
	地域別計画等	地域別計画[2030年におけるめざす姿、概要、特性と課題、取組の基本方針と主な取組]				地域別計画[2030年におけるめざす姿、概要、特性と課題、取組の基本方針と主な取組]				
知事	三村申吾(H15.6.29～)									
国	名称	第二次国土形成計画								
	策定時期	平成27年8月								
	目標年次	目標年次：平成27年から概ね10か年間								
	基本的目標									
	内閣総理大臣	安倍晋三(H24.12.26～)								
県の経済動向等	名目経済成長率	1.3%	3.6%							
	実質経済成長率	-0.5%	2.70%							
	社会経済白書(経済白書、県民生活白書)のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・健康長寿社会の実現に向けて(H26) ・県民一人ひとりの経済基盤の確立にむけて(H27) ・魅力あふれる「あおもりワーク」の確立に向けて(H28) ・「ひと」が支える持続可能な地域づくり(H29) ・人口減少社会に対応した地域公共交通の構築に向けて(H30) 								
国の経済動向等	名目経済成長率	2.2%	2.8%	0.7%	2.0%					
	実質経済成長率	-0.4%	1.3%	0.9%	1.9%					
	経済財政白書(112までは経済白書)のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・よみがえる日本経済、広がる可能性(H26) ・四半世紀ぶりの成果と再生する日本経済(H27) ・リスクを超えて好循環の確立へ(H28) ・技術革新と働き方改革がもたらす新たな成長(H29) ・「白書」：今、Society5.0の経済へ(H30) 								
日本の景気循環(通称・俗称)	アベノミクス景気(継続中)									
青森県に関する主な出来事	<ul style="list-style-type: none"> ・天皇、皇后両陛下ご来県(H26) ・県産米新品種「青天の霹靂」特Aランク取得(H27) ・県産米新品種「青天の霹靂」発売開始(H27) ・北海道新幹線新青森・新函館北斗間開業(H28) ・伊調馨選手、五輪4連覇で国民栄誉賞(H28) ・八戸市が中核市に移行(H29) ・全国高校サッカーで青森山田高が県勢初優勝(H29) ・津軽塗が国の重要無形文化財に指定(H29) ・国際定期便「青森・天津線」が就航(H29) ・弘前さくらまつり100周年(H30) ・縄文遺跡群が世界文化遺産推薦候補に選定(H30) 									
国内・世界の主な出来事	<ul style="list-style-type: none"> ・7x7/ミックスの評価を問う衆院選自民圧勝(H26) ・STAP細胞論文に改ざんなど不正(H26) ・環太平洋パートナーシップ(TPP)協定大筋合意(H27) ・社会保険庁・税番号(マイナンバー)制度開始(H28) ・陸上100m、日本人初の9秒台(H29) ・経団連が2021年春から就活ルールを撤廃(H30) ・史上初の米朝首脳会談が開催(H30) ・米國抜きでTPP11が発効(H30) 									

コラム③ 情報通信技術（ICT）を賢く使う

県庁舎の耐震・長寿命化工事の関係で執務室の場所を移動することになり、書類を箱詰めして引っ越し先ではキャビネットに戻す作業を行った。嵩張る書類の収納は少しずつ進めることにしたが、ノートパソコンの移動は簡単なもの。電源とネットワークケーブルを抜き、引っ越し先で接続するだけで直ぐに使用でき、何の支障もない。こうした庁舎内のネットワークを使用し、インターネットに接続して電子メールをやり取りする環境は20年ほど前に整備されたものである。

平成に変わった30年前は、まだ相手がいる時に電話で連絡し郵送で書類をやり取りするスタイルが当たり前だったが、今は電子メールで情報を送れば、時間や場所に左右されず情報共有ができ、データも入手できる。インターネットで繋がることによって様々な情報が職場にしながら入手できる。20年前のネットワーク整備を契機に仕事のやり方が変わっていくことになった。

そして、今やインターネットは日常生活にまで深く関わるようになってきている。コンパクトで高性能、持ち運び自由なスマートフォン（スマホ）の登場で、インターネットを介して、誰もがいつでも様々なサービスを使えるようになり、メールやホームページを見るだけでなく、音楽や動画を購入して視聴することもできる。初めて訪れる場所であっても、歩くような感覚でネット上から画像を調べることができ、実際に行ったときはスマホのアプリで道案内も可能。財布を持ち歩かなくてもスマホによるキャッシュレス決済で料金を支払うといった具合に、その活用範囲は広がり続けている。

もちろんインターネットも最初から今のような状況だったわけではない。データのやり取りを支える通信環境を見ても、20年前はISDN回線だったが、今は光回線が主流となり、以前とは比べ物にならないほど大量のデータを高速にやり取できるようになっている。例えば、音楽アルバム1枚分をISDN回線でダウンロードしようとすると計算上は2時間以上かかるが、光回線では10秒かからないという。スマホのような高性能な携帯機器の登場だけではなく、こうした回線の高速化もインターネットの利便性向上に大きく関わっている。

今後は、あらゆるモノがインターネットにつながるIoTが普及し、情報通信技術（ICT）は様々な産業分野で生産性や利便性向上に活用され、こうした動きに伴って、私たちがICTを利用する場面も増えていくことが予想される。

一方で、インターネットの利用には、SNSで発信した内容があつという間に拡散し予期しない反応にさらされる、あるいはウイルスに感染するなど、新たなリスクが発生することも事実であり、こうした点への理解を自ら深めていくことも大切である。

職場にネットワーク回線が整備されて20年。当時はメールを打つよりも電話をかけた方が早いだろう、といった会話が交わされた記憶もあるが、ここまで仕事でも日常生活でもICTが活用される世の中では、正しい使い方を学び安全対策をしっかり確保して、生活の利便性と質の向上に繋がるように賢くICTを使用していきたいと思う。